

ちばだいい
プレス

千葉大学広報誌

特集

2015春、千葉大学の道しるべ
徳久学長への

7つの
質問

特集

CAMPUS GUIDE 2015

千葉大学の4つのキャンパスを歩いてみよう!

31

vol.

2015 MARCH

徳久学長への7つの質問

新入生を迎え入れる4月は、大学にとって節目の月でもあり、また在学生や教員にとっても、学年が替わる心機一転の時期だと言えるのではないのでしょうか。そんな新しい期待に胸が膨らむ新年度を迎えるにあたって、千葉大学の旬なトピックを中心に、千葉大生の印象や大学がこれから目指すべき方向、さらには新入生に贈るメッセージなど、徳久学長にたっぷりとお話をうかがうことができました。

研究機関としての独自性が教育の質を高める

Q.1 徳久学長の考える千葉大学の魅力とは？

いくつもありますが、私は、総合大学としての多様性、立地の良さ、学部間の活発な交流、教員の熱意といったところが魅力だろうと考えています。加えてもうひとつ重要なのが、研究機関としての独自性です。「真菌医学研究センター」や「環境リモートセンシング研究センター」といったユニークな研究施設があるのが千葉大学の売りですが、大学というのは教育の場であると同時に研究機関でもあり、優れた研究を行うことで教育も充実していきますので、この独自性は大学としての大きな魅力だと自負しています。



自分の位置を理解しているのが千葉大生の印象

最近になって大きな変化があったというのはなく、私が千葉大生だった頃からまじめさや前向きな面が見られる学生が多いという印象があります。大きな夢を描いて大胆に行動するという点では、もっと進取の気概を持ってがんばってもいいのではないかと思いますが、集団の中で自分ができる位置にいるのか、何をすればいいのか、何がわかっているのか、チームで何かをすると驚くような結果を残すことがありますね。これは千葉大生の良い点だと思います。

Q.2 最近の千葉大生の印象は？

外来診療棟と医学系3学部で充実の亥鼻キャンパス

それから、医学部附属病院の充実ぶりにもぜひ注目していただきたいですね。近年では、入院よりも日帰り診療が増えていて、千葉大学ではこうした状況に対応するため、平成26年7月に外来診療棟を開院し、新たな診療体制を整えています。

これに関連して、医学部附属病院のある亥鼻キャンパスも、薬学部の亥鼻への移転が平成23年に完了し、医療系3学部(医学部・薬学部・看護学部)が揃い踏みとなりました。ここで重要になるのがIPE(専門職連携教育)と呼ばれる教育プログラムです。この3学部が、大学1年次から机を並べて学部の壁を越えた教育を受けることで、総合的な知識を持った医療人材の育成を可能にしている点は、学部間の交流が活発な千葉大学ならではの点だと思っています。



平成28年4月、10番目の新学部を創設

最大のトピックとしては、国際教養学部の創設があります。内容的には文系と理系が混合したような学部を目指していて、グローバルな人材育成に対応するものにする予定です。千葉大学に新しい学部ができるのは約30年ぶりで、全学的な一大イベントと言えますね。

大学院専門法務研究科(法科大学院)にも触れておきましょう。専門職課程は育成する人材像が明確なので、教育体制がしっかりしていれば良い結果につながります。千葉大学の大学院専門法務研究科(法科大学院)は、昨年10年の節目を迎えましたが、司法試験合格率も高く、目的志向型教育のあるべき姿として、今後ますます充実させていくつもりです。

Q.3 現在の千葉大学で注目すべきことは？

す。アカデミック・リンクは、まさにそうした将来に向けた学びのひな形となるアクティブ・ラーニングの場なので、学生の皆さんには存分に活用していただきたいですね。

学生の自主参加という点では、環境ISO学生委員会にも注目しています。150名の学生が自主的に運営しているという点で素晴らしい取り組みだと思いますし、組織の維持や社会機構など、本を読むだけでは身に付かないことを実地でやっているという点が注目に値すると思います。





知能をもとに、知性を磨くのが
大学で学ぶということ

大学で学ぶことの意味を、私は最近、知能と知性ということでお話しています。知能というのは、勉強や経験を通して伸びてはいきますが、無限に伸びるわけではなく、伸びるところまで伸びたら止まりますので、身長に例えられます。一方

Q.4 大学で学ぶ ということとは？

の知性は、増やすも減らすも自分次第です。身長と体重に例えることができます。身長と体重でいけば重要なのはバランスですよ。痩せすぎても太りすぎてもいけません。自分の身長にあった体重を自分でしっかりとコントロールすることで、「これが自分だ」という実感も持てるし、周囲からの評価にもつながります。知能をもとに知性を構築していくという意識を持つことが、大学で学ぶということなのではないかと私は考えています。

打ち込めることを見つければ
進むべき道が見えてくる

これから大学生活を始める皆さんに伝えたいのは、大学はやりたいことを見つける場所だということです。やりたいことというのは、すなわち楽しいことと言い換えてもいいでしょう。とにかく何でも経験してみても、楽しいことや打ち込めることを見つけてください。そうすれば、自分が進むべき道が見えてきます。

それから、これは新年度を迎える全学生に当てはまることですが、年度が変わるときというのは、自分を変えるチャンスだということをお伝えしたいですね。新しいことを始めてみたり、自分の優先順位を変えてみたり、自分に変化を起こすきっかけになる時期だと捉えてみていいんじゃないでしょうか。

Q.6 新年度を迎える 学生の皆さん へのメッセージ

短くてもいいので、とにかく
海外留学を体験して欲しい

とにかくいろんな経験をして欲しい。勉強ももちろん大事ですが、やはり体験するということが海外留学です。日本を出るといっては、単に語学を勉強するだけではなく、自分と異なった社会や価値観の中で、自己表現する訓練をするということ。短期間でもいいので、海外留学は必ず体験して欲しいと思います。日常から脱却して未知のものを見るとい意味では、積極的に

Q.5 千葉大生の皆さんに 取り組んで欲しいことは？

旅行に行くのもおすすめです。

学生時代は社会に出るための
シミュレーション期間

学生時代というのは、社会に出るためのシミュレーションという側面もあるので、全学サークルに加入して人間関係の築き方を学んだり、ボランティア活動やインターシップを通して社会勉強をしたりするのもいいでしょう。これに関連してぜひおすすしたいのが、何かしらのリーダー経験を積むことです。学生時代はたくさん失敗できるのですから、自分からリーダーに手を挙げて



みるといいと思います。やってみて向いていなければ違う方向を探ればいいし、私の経験からして、リーダーになろうと努力をすれば、不思議とあとからリーダーとしての力がついてくるものです。最後にひとつだけ、皆さん、大いに恋をしてください(笑)。異性を好きになるというのはすごいことです。恋愛をすれば男女の違いを知ることにもつながりますし、相手の気持ちを深く思いやることも出来るようになります。女性が社会で働き続けることも当たり前の時代で、恋愛経験をしておくことは、社会に出ても必ず役に立つと思います。



徳久剛史 (とくひさ・たけし)

経歴
昭和48年 3月23日 千葉大学医学部卒業
平成23年 4月1日 千葉大学理事(研究・国際担当)
平成26年 4月1日 千葉大学学長
学位
医学博士(千葉大学 昭和55年3月25日)
専門分野
免疫学、アレルギー学、腫瘍学、分子生物学
座右の銘
諸行無常

どの学部出身でも同じ千葉大卒
としての同窓意識を

大学として最も重要なことは、やはり研究活動が盛んなことだと思います。研究がしっかりできていてこそ、教育内容の質も上がりますし、学生や教職員が各自の知的興味に沿って生き生きと知的活動を行うことができる大学であり続けたいと思います。そして、その延長上には、個々の学生が描く夢の実現に向けた教育というものがあると思っています。自分が好きなことだったり、先輩や同級生から刺激を受けたりして描いた夢を、教

員がしっかりとサポートすることで、将来に向けて夢を実現していけるような大学になるといいですね。

そして最後に、同窓意識を持てるような大学にしたいという気持ちがあります。大学時代というのは、確立した自我同士が自由な形で出会う場です。だからこそ卒業しても利害を抜きにした交友関係を続けることができますし、そこから人脈も広がっていきます。どの学部を出ようが、千葉大卒という点では同じなのです。ぜひ社会に出ても同窓意識を持って、仲間を大切にしてください。

Q.7 どんな千葉大に していきたいですか？

特集

CAMPUS GUIDE 2015

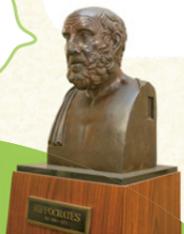
千葉大学の4つのキャンパスを歩いてみよう!

千葉大学の4つのキャンパスに足を運んだことはありますか？
 ケヤキやクスノキが茂る緑豊かな西千葉キャンパス、千葉市中央区の高台に位置する亥鼻キャンパス、小高い丘の上に森に囲まれるようにある松戸キャンパス、そして、環境健康フィールド科学センターが置かれた柏の葉キャンパス。新しい春、新生活のスタートに4キャンパスめぐりをしてはいかがでしょうか。

看護学部の中庭

四季折々いろいろな種類の花が咲く看護学部の中庭は、学生や教職員の癒しスポットです。園芸学部との共同花壇「看芸ガーデン」もあり、看護学部らしさあふれるテーマにそって植えられた花々が訪れる人を「歓迎」します。

医学の祖
「ヒポクラテスの胸像」。
若い医学生たちを見守っています



屋根飾り

薬学部旧校舎が1918年(大正7年)に猪之鼻町に建設された際の屋根飾りは、西千葉移転、そして再び亥鼻に戻った現在でも、歴史ある薬学部の学舎のシンボルとして保管、展示されています。



医学部棟

千葉大学医学部(旧病院)は、1931年(昭和6年)から1937年(昭和12年)にわたり足かけ7か年の歳月を費やし建造され、建設当時はドイツ医学の粋を集め東洋一の病院と称せられたといわれています。外壁には旧帝国ホテルでも使用されたスクラッチタイルが使われています。



記念講堂

創立85周年記念事業の一環として、1964年(昭和39年)9月27日に落成式を迎えた講堂。開放的なオーデトリウムを持つ日本モダニズム建築の傑作とも言われ、千葉市を代表する建築物です。



看護学部のシンボルとして親しまれている
ナイチンゲール像



亥鼻 キャンパス



医学部附属病院外来診療棟

140年余りの歴史を持つ千葉大学医学部附属病院。2014年7月には外来診療棟がリニューアルオープンしました。「ガラス」と「木質材料」の調和をキーワードに設計され、医療の透明性と温かさを表現しています。



附属図書館亥鼻分館

地上3階、地下1階、収蔵可能冊数26万冊以上の規模を持つ附属図書館亥鼻分館。古医書コレクションとして、5千5百冊の貴重書を所蔵しています。



附属図書館/アカデミック・リンク・センター

アカデミック・リンク・センターは『考える学生』を育成するために、附属図書館、統合情報センター、普遍教育センターが協力して立ち上げられ、ゼミに、講義に、オープンなプレゼンテーションスペースとしても利用できるなど、さまざまな学びをサポートしています。



西千葉 キャンパス



弥生通り

西千葉キャンパスの中央を走るメインストリート。工学部側に桜、事務局側にけやきが並びます。四季の移り変わりを楽しめる、西千葉キャンパス一番の名所となっています。



教育学部同窓会から
寄贈された
「師道」の石碑



総合学生支援センター

学生支援課や就職支援課、学生相談室が集まる学生支援プラザや、気軽に英語でのコミュニケーションを楽しむことができるイングリッシュ・ハウス、学生が自由に学習することができるアクティブ・ラーニングゾーン、ふれあいの環、ライフセンターなどが設置されています。



総合安全衛生管理機構 保健管理棟

総合安全衛生管理機構は環境安全部、労働衛生部、学生保健部の3部門で構成され、亥鼻地区、松戸地区、西千葉地区に設置されている保健室では、健康診断実施日を除き、心身の健康診断、応急処置、初期治療と医療機関の紹介を行っています。

西千葉キャンパスは、
ボクの散歩コースだニャ〜



卒業制作のオブジェ。
どこにあるか探してみよう!



サイエンスプロムナード

研究の最先端でいつも感じる「ひらめき・ときめき・ドキドキ・わくわく」をアートと組み合わせたい、感じ取ってもらいたい、という希望と構想からできた国立大学初のミニ科学館です。



千葉大学柏の葉診療所

国立大学法人としては全国初となる自由診療体制で漢方専門外来を行う千葉大学柏の葉診療所。人間が本来持っている自然治癒力を活性化させる本格的な東洋医学の診療・研究を行っています。



加工実習棟

学生実習での収穫された果物をジャム等の製品に加工します。加工場では学生実習により千葉大オリジナルの美味しいジャムが製造されています。



**柏の葉
キャンパス**



おいしく育ってます!



果樹栽培。おいしく実った果実の行方はいずこ

高度化セル成型苗生産利用システム

安全で安心な園芸作物・機能性植物を生産するため、高度苗生産技術教育・研究を行う施設で、国内外の研究者、企業、公的機関等からの研修、学内の実習教育を行っています。温室では教材としてたくさんの植物を生産し、四季折々の花を咲かせ出荷されます。



農産物直売所「緑楽来(みらくる)」

学生実習などで栽培・収穫された果物・野菜・花卉や、ジャム・味噌の販売を行っています。

営業時間
月曜～金曜 13:00～16:00 (定休日) 第1・第3水曜日



人工光利用型植物工場

屋外環境と完全に遮断された閉鎖環境で蛍光灯などの人工光源により植物を生育する施設です。この研究により、農業・園芸の高度化とともに、植物生産における無農薬化が可能となり、安心安全で高品質な有用植物の安定供給化を目指しています。



太陽光利用型植物工場

野菜等の食料を安定的に周年生産する植物工場の普及・拡大を目指し、高度な統合環境制御を行うことで最小の資源とエネルギーの投入で、最大の収量を得るシステムを確立する最先端の植物工場です。

樹齢90年のクスノキ

旧正門を入ると目の前にそびえる樹齢90年のクスノキ。こまでまとまっているのは珍しく、そのスケールの大きさに圧倒されます。クスノキは人の手で植樹されたものが多く大木になることから、ご神木として信仰の対象とされるものもあります。



**松戸
キャンパス**



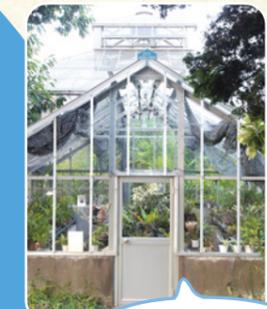
赤星先生像

1909年に開校した千葉県立園芸専門学校(1914年に千葉県立高等園芸学校に改称)の2代目校長、1929年に文部省に移管され官立千葉高等園芸学校に改組されてからは初代校長として、学校運営に尽力した功績を称え建立されました。



100周年記念戸定ヶ丘ホール

園芸学部創立100周年記念のシンボルとして2011年10月に完成しました。「園芸」に関する文化交流の場として利用されています。



観賞用温室は、ちょっとした植物園!? ※現在は一般の方の立ち入りをお断りしています

フランス式庭園

明治時代末期にヴェルサイユ宮殿をモデルに造られた、松戸キャンパスのシンボルとも言えるフランス式庭園。現在もキャンパス散策の中心的存在です。全体を見渡すことができるように周囲より一段低く作られた庭園(沈床花壇)は、軸線を設定しての左右対称性、幾何学的な池の配置や植栽の人工的整形などを特徴としています。



春は満開の桜が学生たちを迎えてくれます!



イタリア式庭園

管理棟前にはイタリア式庭園には、日時計のあるセンターサークルと、それを縦に区切るように2本の銀杏の木があり、絵画のような美しい風景を創り出しています。管理棟、日時計のある整形式庭園、ロックガーデン側の園路は一段ずつ高さが異なるテラス式の構造になっており、一直線に繋がっています。このイタリア式庭園の混垣は西洋庭園に特徴的な腰植えで、80種もの樹種からなる「園芸学校式混垣」と呼ばれる世界最多の混垣です。





世の中の問題は、テーマが個別に存在するのではなく、個々のテーマが複雑に関連し合うことで起こっていると説く広井良典教授。社会保障制度から地域コミュニティまで、多種多様な研究を行っている広井教授にお話を伺いました。



▲ゼミでは、学生が取り組みたいテーマについての発表を行う。最近は地域コミュニティに関心を持つ学生が多いとか



▲ゼミで行われた鎮守の森セラピー(森林療法)の試み。森林インストラクターの指導のもと、学生たちが鎮守の森において気功や樹木に触れるなどの活動を行った(市川市・白幡天神社)



◀これまでに単著だけでも20冊ほどの著作を出版。「私にとって本を書くのは、広い意味での思想を表現するということです」と広井先生

哲学的な視点から福祉や地域に関する提言を発信

—先生が取り組んでおられる研究について教えてください。
私の研究テーマは、大きく分けると公共政策と科学哲学です。社会にはさまざまな問題がありますが、私は、一つ一つのテーマが独立しているのではなく、相互に関連があったり、複数の問題が複雑に絡み合ったりしているという考えで研究を行っています。たとえば、私が取り組んでいるテーマの一つに少子高齢化がありますが、深く考えていけばいくほど、医療や社会保障、若年層への支援、地域コミュニティのあり方など、多種多様なテーマが関係していることが見えてきます。また、人間と社会との関わりという面では、制度的な問題だけでなく、本来の意味での豊かさや社会の幸福、死生観といった哲学的な問題にも向き合う必要があります。
—公共福祉を考える上で哲学的な面に踏み込むという考え方をされるようになったのは、何かきっかけや理由があるのでしょうか。
「人は何のために生きるのか?」という哲学的なテーマには高校時代から関心がありました。大学は法学部に入学したのですが、自分がやりたいのはやはり哲学だという考えがあったため、3年次に教養学部へ転籍して科学史・科学哲学を専攻し、大学院では学際的な研究を行う相関社会科学という分野に進みました。このときに身につけた哲学的な考え、つまり、表層でなく本質や根本について思索するという志向が、現在の私の研究姿勢の基礎になっているのだと思います。千葉大学に赴任する前は、厚生省(現・厚生労働省)で社会保障に関連する業務に就いていた時期があるのですが、この時期に海外留学をする機会があり、そのときにやはり自分は研究職が向いていると実感しました。1996年に千葉大学からの誘いで研究の道を選ぶことになりましたが、こうし

た経験から、哲学的あるいは根源的なテーマと、現実に行っている具体的な政策的な課題を結びつけて考えることが大切と思うようになりました。
—先生にとって研究の醍醐味ややりがいとはどのような点なのでしょう。
公共政策についての研究というのは、単に問題点を指摘するだけではなく、どうすればそれを克服できるのかを考え、提言していくことが重要です。私は、研究を通して自分に得られた考えを著書や論文といった形で世に出すようにしています。また、政府の審議会などに参加させていただくことがあります。麻生政権時代に委員を務めた教育再生懇談会では、子育てや若者支援の強化を促す「人生前半の社会保障」という言葉を提唱し、最終報告に反映されました。こうした形で提言が採り入れられると、少しは社会の役に立っていることを実感できてやりがいを感じます。

—では、最後に学生へのメッセージをお願いします。
私は今、「鎮守の森プロジェクト」という取り組みをしています。これは人間の豊かさや幸福の拠りどころとして地域コミュニティが果たす役割を研究するというものですが、ここでもやはり豊かさや幸福といった哲学的なテーマが関連しているんですね。人は20歳頃に考えたテーマを一生考え続けると思います。私にとっては哲学的なことがそうでした。20歳頃というと、ちょうど学生の皆さんの年齢です。自分が興味を持つテーマを見つけることが大学時代の一番の課題です。そうすることで自分が進むべき方向も見えてくると思います。



広井良典(ひろい・よしのり)
千葉大学法政経学部法政経学科教授。東京大学教養学部、同大学院修士課程修了。厚生省(現・厚生労働省)勤務を経て1996年より千葉大学に籍をとり、2003年より現職。専攻分野は公共政策。著書に『定常型社会』(岩波新書)など多数。

千葉大学出身長島理選手が銅メダルを獲得

AWARD



長島理選手、表彰式での様子

2014年10月、韓国仁川で開催されたアジアパラ競技大会において、車椅子クラスの長島理選手（自然科学研究科物質化学工学専攻2004年度修了）が銅メダルを獲得しました。長島選手はこれまでの大会でも数々の好成績を残しており、2020年東京パラリンピックではバドミントンが初めて採用されることもあり、今後の更なる活躍が期待されています。

千葉大学生協「単位パン」期間限定販売

INFORMATION



ライフセンターで販売された「単位パン」

1月13日〜23日限定で、「単位パン」が千葉大学生協などで販売されました。以前から各大学の生協には学生から単位を売ってくださうとの要望があったため、大学生協東京事業連合が企画し実現したものです。製造したのは流山市に工場がある給食パン製造「小菅製パン」。企画のユニークさやパンそのものおいしさと好評で、新聞やテレビにも多数取り上げられるなど、当初の予想をはるかに上回る人気となりました。

第5回日本学術振興会育志賞を受賞

AWARD



左から松元亮治研究担当理事、尾畑佑樹さん、徳久剛史学長

3月4日、日本学士院において第5回日本学術振興会育志賞の授賞式が挙行され、千葉大学から大学院医学薬学専攻先端医学薬学専攻3年の尾畑佑樹さん（博士課程の研究課題「消化管における免疫制御メカニズムの解明」）が受賞しました。同賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰すること、その勉強及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として創設されたものです。第5回目となる今回、全国から推薦された157名の学生の中から18名が受賞しましたが、千葉大学の学生が受賞するのは今回が初めてとなります。授賞式当日は天皇皇后両陛下がご臨席され、式後の記念茶会では、両陛下が受賞者一人ひとりとご歓談されました。3月10日には尾畑さんは徳久学長、松元研究担当理事のもとを訪れ、受賞の報告とともに、今後の研究活動などについて、和やかな雰囲気のもと懇談が行われました。

ジェフユナイテッド市原・千葉の選手が小児病棟を訪問

INFORMATION



ジェフユナイテッド市原・千葉の選手によるサイン会の様子

1月15日、医学部附属病院にジェフユナイテッド市原・千葉の選手およびスタッフが訪れ、小児病棟の子どもたちと交流しました。病棟ではじゃんけんゲームをして遊んだり、リフティングのコツを教えてもらったりと、参加した16人の子どもたちは選手との交流を楽しんだ様子で、「病院にいたのに、ふだんなら絶対にできない体験ができて良かった」「選手たちに活躍してほしいなど、嬉しい話を聞きました。

環境ISO学生委員会が古本の回収を実施

EVENT



西千葉キャンパスにて古本の回収を行う環境ISO学生委員会

1月にISO14001認証取得10周年を迎えた千葉大学のNPO法人環境ISO学生委員会は、4月に開催される本のリユース促進のためのイベント「古本市」委託販売に先駆け、1・2月に古本の回収を行いました。本の売り上げは希望により返金または寄付できる仕組みとなっています。また、2・3月には不要となった自転車の回収イベントを開催するなど活発な活動を展開しています。

開所記念セミナー開催 柏の葉診療所 東洋医学センター

EVENT



講演中の角野めぐみ氏（柏の葉診療所薬剤師）皆様たいへん熱心に聴講されていました

自由診療での漢方専門外来（国立大学法人としては全国唯一）を開始した柏の葉診療所東洋医学センターが、1月17日、開所記念として東洋医学に関する市民公開セミナーを開催しました。当日は多くの市民の方々が参加し、千葉大学客員教授も務める医師の秋葉哲生氏が「東洋医学の真髄」、柏の葉診療所薬剤師の角野めぐみ氏が「『医食同源』を生活に活かす」をテーマに講演を行いました。

大学改革シンポジウム「今、アジアがアツイ ―千葉の取組―」を開催

EVENT



パネルディスカッションの様子

2月1日、スーパーグローバルプログラムの一環として産官学のアジア交流の現状と重要性の理解及び地域の発展に向けた協力体制の構築をテーマとしたシンポジウムを開催しました。ファシリテーターの尾畑佑樹直樹取締役や、英語話者として世界で活躍している神奈川大学の犬島希巴江教授が講演を行い、一般市民や学生ら約150人が聴講しました。このほか、総合人材サービス会社、ネオキャリアの西澤亮一代表取締役や学生らと交え、活発なパネルディスカッションが行われました。

次世代の種～SEEDSのためのテクノロジーとイノベーションを育てる

千葉大学SEEDS基金

ご支援・ご協力をお願い
チャレンジを支え、人を育てる基金です。

千葉大学SEEDS基金の主な用途は、学生生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などです。

学生、若手研究者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



整備を行った総合学生支援センター内のアクティブ・ラーニングゾーン

ホームページから寄付の申し込みの手続きができます。
詳しくは <http://kikin-chiba-u.jp/>

かつて千葉大生に時を知らせた「やよいの鐘」

もっと
知りたい
千葉大学



附属図書館屋上に設置されている「やよいの鐘」

千葉大学創立30周年記念事業の一環として、1982年に、附属図書館本館の塔屋に設置されたのが「やよいの鐘」です。鐘の表面には、千葉大学の理念である「AD ALTIORA SEMPER」（ねにより高きものをめざして）の文字のほか、千葉大学のルーツとなった7つの旧制学校の校章が刻まれています。設置当初は正午と夕方に鳴らしていましたが、近年は老朽化などのため、使われていません。しかしその音色は、大学の公式HPで確認することができ、国際教育センター（国際教育見城梯台）

シナモンマスクの臨床試験を開始

INNOVATION

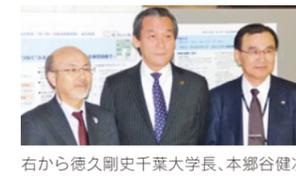


インフルエンザ予防に効果が期待されるシナモンマスク、臨床試験の様子

医学部附属病院和漢診療科の並木隆雄診療教授が開発に取り組み、インフルエンザ予防に効果が期待されるマスクの臨床試験が行われています。東洋医学と西洋医学それぞれの長所を取り入れた、全国的にも珍しい医療を行う和漢診療科ならではの「漢方」と「マスク」との組み合わせによる挑戦です。今回の臨床試験で安全性が確認されれば、来シーズンにも、予防効果を確かめる臨床試験を行う予定です。

大学COC事業 共同開催！「千葉大・聖徳短大・松戸市 連携シンポジウム」

EVENT



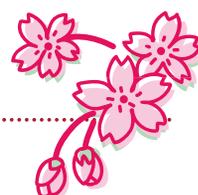
右から徳久剛史千葉大学学長、本郷谷健次松戸市長、増井三夫聖徳大学・聖徳大学短期大学部副学長

2月21日、千葉大学は、聖徳大学短期大学部、松戸市との連携シンポジウム「産官学民連携による地域課題解決とその体験を通じた学び」を聖徳大学（松戸市）にて開催し、約180名が来場しました。シンポジウムでは事業報告、基調講演及びパネルディスカッションを行い、地域の課題解決や人材育成の面で、大学と地域が連携することによってどのような可能性を見出せるのかについて、パネリストと市民がそれぞれの視点や立場から共に考える会となりました。千葉大及び聖徳短大の大学COC事業における活動成果も同時開催されました。

vol.31



I N D E X



02 特集 徳久学長への7つの質問
千葉大学の“今”がわかるインタビュー

06 特集 CAMPUS GUIDE 2015
千葉大学4キャンパスの訪れてみたいスポット

10 研究室訪問
社会保障制度から地域コミュニティまで多種多様な
研究を行う
ー千葉大学法政経学部法政経学科
福祉政策講座 広井研究室ー

12 TOPICS/もっと知りたい千葉大学

[表紙]桜満開の西千葉キャンパス